

科目名		文化と社会（ Culture and Society）							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
4年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期	45 時間		
担 当 教 員		【非常勤】講師 江波 昌子 （【副担当】教授 岩元 修一 ）							
学 習 ・ 教 育 到 達 目 標									
科目の到達目標レベル	①時代とともに変化する音楽・美術などの文化活動について、歴史的観点から説明できる。 ②時代とともに変化する音楽・美術などの文化活動が社会にいかに影響を与え、また人々の生活をいかに反映してきたのかを説明できる。 ③文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さについて理解できる。								
到達目標（評価項目）	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
到達目標①	音楽や美術など人間の文化活動の変化について、歴史的観点から詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	音楽や美術など人間の文化活動の変化について、歴史的観点から詳細な基礎的知識をもとに説明できる。		音楽や美術など人間の文化活動の変化について、歴史的観点から6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		音楽や美術など人間の文化活動の変化について、歴史的観点から6割の基礎的知識をもとに説明できない。			
到達目標②	人間の文化活動は社会からどのような影響を受け、また人々の生活を反映してきたかについて、詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	人間の文化活動は社会からどのような影響を受け、また人々の生活を反映してきたかについて、詳細な基礎的知識をもとに説明できる。		人間の文化活動は社会からどのような影響を受け、また人々の生活を反映してきたかについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		人間の文化活動は社会からどのような影響を受け、また人々の生活を反映してきたかについて、6割の基礎的知識をもとに説明できない。			
到達目標③	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さについて、詳細な基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さについて、詳細な基礎的知識をもとに説明できる。		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できない。			
学習・教育到達目標		(F)		JABEE基準1(2)		(a)			
達 成 度 評 価（％）									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		○					100
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○		◎					
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									

関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	
教科書	はじめての音楽史(片桐功ほか著 音楽の友社)
補助教材等	
学 習 上 の 留 意 点	
授業では音楽を中心にすすめていきますが、美術や文学など同時代の他の芸術についても触れていくようにします。実際に代表的な作品の一部に接して、音楽という人間の根源的な営みのひとつに対する認識と造詣を深めると同時に、豊かな教養を身につけましょう。授業は丁寧に板書をしながらすすめますので、しっかりノートをとって、復習に役立て試験に備えて下さい。 レポートの書き方や内容については具体的に指示しますので、自分の頭で考え、力をつくして作成して下さい。厳しく評価します。	
担 当 教 員 か ら の メ ャ セ ー ジ	
この授業では、我々のいまを取り囲んでいる音楽が西洋音楽を基礎に成り立っていることを知り、古来の伝統音楽にも触れつつ、日本が西洋音楽をどのような過程で受容してきたかを学びます。文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解して、これからの時代を担っていく技術者として豊かな人間性を育み、社会に貢献する自覚と素養を培うことを目指してほしいと思います。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス はじめに	・ シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・ 西洋音楽史のはじまりと、古代ギリシアの歴史と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
2	西洋音楽史Ⅰ	・ 中世の歴史と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
3	西洋音楽史Ⅱ	・ ルネサンスの歴史と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
4	西洋音楽史Ⅲ	・ バロック時代の歴史と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
5	西洋音楽史Ⅳ	・ バロック時代の歴史と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
6	西洋音楽史Ⅴ	・ 古典派の時代と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
7	西洋音楽史Ⅵ	・ 古典派の時代と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
8	中間試験		
9	試験返却・解答解説	・ 試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
10	西洋音楽史Ⅶ	・ ロマン派の時代と歴史について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
11	西洋音楽史Ⅷ	・ ロマン派の時代と歴史について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
12	西洋音楽史Ⅸ	・ 20世紀の時代と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
13	日本音楽史Ⅰ	・ 日本音楽史の始まりと伝統音楽について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
14	日本音楽史Ⅱ	・ 伝統音楽と西洋音楽の並存について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。 学習した内容を復習する。
	期末試験		
15	試験返却・解答解説	・ 試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間